

がん検診受診率向上に向けた 取組について

令和 4年 10月

健康福祉局 健康づくり推進課

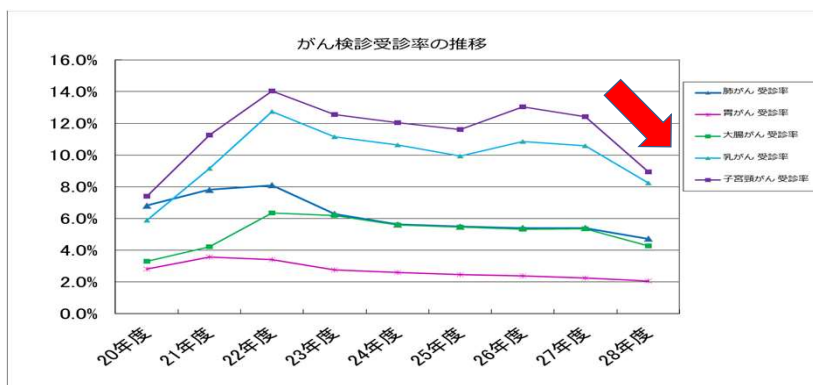
【がん検診受診率の課題】

【受診率の推移】

がん検診の受診率は、下記に記載した市町合併、無料クーポン事業等の制度変更、震災等により平成28年度は大幅に低下した。受診率は制度改正等の影響を受けやすい傾向にある。

【主な制度改正等】

- ・H20年度 富合町合併
- ・H21年度 城南町・植木町合併
- ・H22年度 子宮頸がん・乳がん検診無料クーポン事業開始
大腸がん検診個別検診開始
- ・H23年度 大腸がん検診無料クーポン事業開始
- ・H24年度 子宮頸がん・大腸がん(個別検診)自己負担額アップ
- ・H28年度 熊本地震発生
子宮頸がん、乳がんのクーポン対象者変更
大腸がんクーポン終了

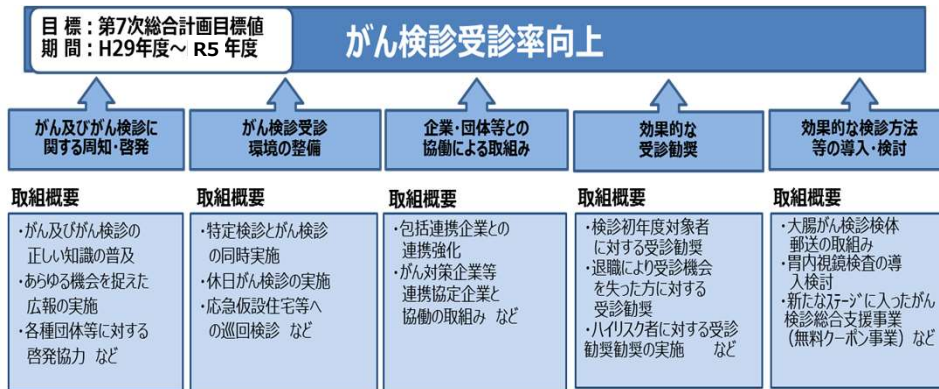


【現在の取組】

【受診率目標と取組】

がん検診受診率目標は、7次総合計画の前期計画の検証値とし、その目標数値に到達できるよう各年度の受診率目安、受診者数目安を設定した。

受診率向上に向けた取組については、下記の市民への周知啓発から効果的な検診方法導入まで5本の柱で実施している。



3

【受診率向上の主な取組】

- がん及びがん検診に関する周知・啓発
 - ・熊本市いきいき健康大使の協力による啓発(H29年度～)
- がん検診受診環境の整備
 - ・応急仮設住宅における巡回検診の実施(H28年度～)
 - ・冬期における大腸がん郵送検診(H29年度～)・・・(1)
- 企業・団体等との協働による取組
 - ・がん対策連携協定企業会議を開催(H29年度～)
 - ・協定企業との連携事業実施(H30年度)
- 効果的な受診勧奨
 - ・受診勧奨の拡充(がん検診ハイリスク者など)(H29年度～)・・・(2)
- 効果的な検診方法等の導入・検討
 - ・胃がん検診における内視鏡検査導入(H30年度～)・・・(3)
 - ・効果的な無料クーポン事業の実施(H29年度～)
 - ・70歳以上がん検診無料化(令和元年度～)・・・(4)

4

(1) 冬期における大腸がん郵送検診(H29年度～)

【課題】

○年代別受診率

	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
受診者数	1,583	2,006	7,618	5,559	1,340
割合	8.7%	11.1%	42.1%	30.7%	7.4%

○性別別受診率

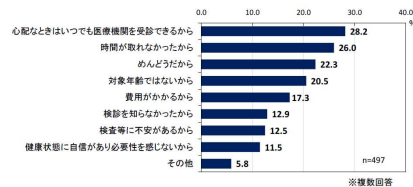
	男	女
受診者数	6,432	11,674
割合	35.5%	64.5%

カテゴリー別に分けてみると、受診が多いのは60歳以上の女性が多い。

市民アンケート調査におけるがん検診を受診しない理由

■受診しない理由 -18歳以上-

受診しない理由は、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が28.2%、「時間が取れなかったから」が26.0%、「めんどうだから」が22.3%、「対象年齢ではないから」が20.5%の順。



5

課題への対応(大腸がん検診受診率向上のために)

○受診率の低い若い世代などの取り込み

・現在は、60歳以上の方が巡回検診や旧合併町などで行っている集団検診などで受診していることが比較的多い

○受診環境の整備

・市民アンケートによるとがん検診を受診しない理由として、時間が取れない、面倒という意見が上位を占めている。

・大腸がん検診に限っていえば、便秘、生理などで集団検診時に提出できないこともあるのでは・・・



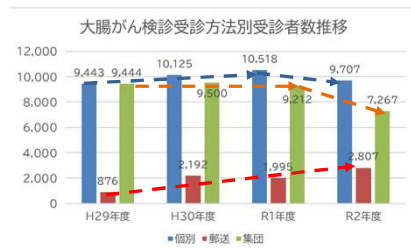
個別検診、集団検診に加え、これまでの未受診層を開拓するため、郵送検診を受診方法として加える

6

大腸がん検診の受診者数推移



大腸がん検診の受診者数は熊本地震が発災した平成28年度から郵送検診の開始も影響し、平成30年度までは順調に伸びていたものの、令和2年度は新型コロナの影響もあり、減少に転じた。



大腸がん検診の受診方法別の受診者数をみても、個別検診は微増傾向、集団健診は、横ばい傾向が続いていたが、令和2年度は新型コロナの影響もあり、減少に転じた。

しかしながら、郵送検診は受診勧奨の効果もあり、コロナ禍においても受診者数が増加した。

7

令和3年度以降の大腸がん郵送検診(拡充)

大腸がん郵送検診は、自宅に居ながらにして受診可能なコロナ禍でも対面機会がなく、検診控えを行っておられる方の受け皿になりえることから、令和3年度から時期等を拡充して実施する。

郵送検診期間延長

実施期間

R2年度まで 11月～2月

R3年度以降 10月～3月

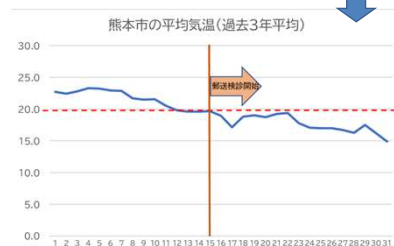
開始時期

令和3年10月15日

※開始時期は精度管理上、本市の過去3年間の気温が20度を下回っている10月15日とする。

令和2年の平均気温

年間平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
17.6	8.8	8.9	12.2	14.1	21.3	24.9	25.8	29.7	24.7	19.3	14.5	6.9



8

郵送検診広報手段の拡充

R元年度まで 市政広報(広報誌,市HP,LINE, Twitter) + **回覧板**
(約2万8千枚)

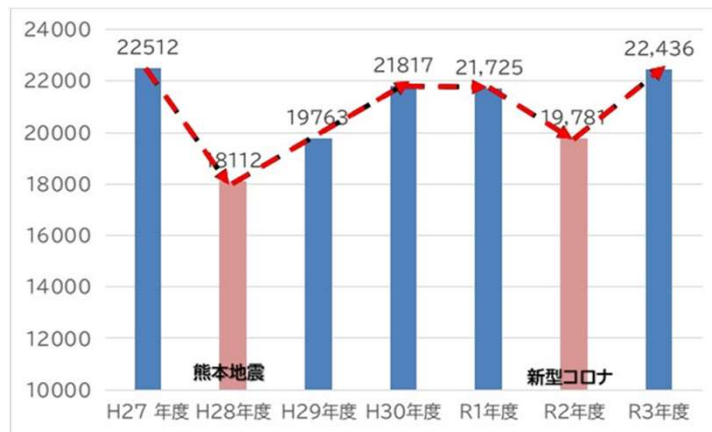
R2年度 市政広報(広報誌,市HP,LINE, Twitter) + **個別受診勧奨**
(節目年齢約28,000人)

R3年度以降 市政広報(広報誌,市HP,LINE, Twitter)



9

大腸がん検診の受診者数推移(~R3)



大腸がん検診の受診者数は熊本地震発災の平成28年度に大幅に低下し、郵送検診を開始した平成29年度以降増加に転じるも、令和2年度は新型コロナウイルスの影響もあり、減少に転じた。令和3年度は震災前のレベルまで受診者数が増加した。

10

大腸がん検診受診方法別受診者数推移(～R3)



大腸がん検診の受診方法別の受診者数は、令和2年度は新型コロナの影響もあり、個別検診、集団検診は減少に転じたが、郵送検診は増加している。更に令和3年度については、郵送検診の前年受診者へのキット送付などの個別受診勧奨等の効果もあり、すべての検診方法で受診者数が増加した。

11

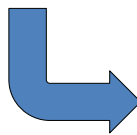
(2) 受診勧奨の拡充(がん検診ハイリスク者など)(H29年度～)

【乳がん、子宮頸がん検診の課題】

○無料クーポン制度改正により受診者数が大幅減

【取組】

○罹患率の高い世代(子宮頸がん:20～30代、乳がん:40～50代)の女性に対し受診勧奨圧着はがきで検診内容等を分かりやすく伝える
個別受診勧奨を実施



受診勧奨区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一定年齢到達者							
1 新規対象者(20歳)	3,700人						
2 前年対象者(40歳)	10,300人						
3 高齢者世代(62・65・68歳)	31,100人	31,000人	29,500人	39,400人	38,100人	37,600人	36,400人
4 節目年齢(40・46・50歳)		31,000人					
5 節目年齢(40・50・60歳)			29,000人	28,600人	28,000人	27,800人	28,800人
6 無料クーポン(子宮頸がん:21歳)	3,700人	3,700人	3,800人	3,700人	3,600人	3,800人	3,700人
7 無料クーポン(乳がん:41歳)	5,600人	5,200人	5,200人	5,100人	5,000人	4,700人	4,800人
8 無料クーポン(再勧奨(子宮頸がん:21歳))	3,700人	3,800人	3,700人	3,700人	3,600人		
9 無料クーポン(再勧奨(乳がん:41歳))		5,200人	5,200人	5,100人	5,000人		
10 胃がんリスク検診対象者(41・45・49歳)						30,700人	30,700人
ハイリスク者							
1 無本場で受診機会を逃した者		33,000人					
2 子宮頸がんハイリスク層(20・26・30・36歳)		17,000人					
3 乳がんハイリスク層(42～48歳、52～58歳)			40,300人	41,700人	40,500人	40,600人	40,100人
4 子宮頸がんハイリスク層(20～38歳)			41,100人	40,800人	40,000人	40,000人	39,000人
5 次年度乳がんハイリスク層(42～48歳、52～58歳)			41,700人	40,900人	41,600人		
6 次年度子宮頸がんハイリスク層(20～38歳)			41,000人	40,400人	39,600人		
7 次年度乳がんハイリスク層(42～58歳)						51,600人	51,500人
8 次年度子宮頸がんハイリスク層(20～38歳)						39,400人	38,300人
9 郵送検診前年度受診者キット送付						2,000人	4,300人
合計	54,400人	129,800人	240,600人	249,400人	245,000人	276,300人	273,300人
増減率		159%	392%	358%	350%	406%	402%

※無本場がん検診受診勧奨に伴う印刷物の作成及び封入封緘等業務委託仕様書等による参考値

12

受診勧奨 前年度末（3月末）

次年度乳・子宮頸ハイリスク対象者受診勧奨
対象者：約72,000人

再勧奨 当該年度中（9月頃）

当該年度乳・子宮頸ハイリスク対象者受診再勧奨
対象者：約72,000人

13

○次年度ハイリスク者受診勧奨圧着はがき（表）（子宮頸がん） 対象：R3年度末年齢20～38歳、3月末発送

料金後納
郵便

STOP! 先送り
コロナ禍でも2年に1度、必ず受診!
熊本市から大切な子宮頸がん検診のお知らせです

ひこまるコール 096-334-1500 (受付時間 平日9時～17時)
健康づくり推進課 096-361-2145

熊本市 熊本市役所 健康づくり推進課 〒962-0971 熊本市中央区大正1丁目1番1号

万一、このハガキが滞っている場合は、十分に乾かしてから
矢印方向にゆっくりはがして中までご覧ください。

子宮頸がんは、20～30代女性で増加しているがんです。

(A) 子宮頸がん年齢別罹患率(10万人対)^{※1}

※1出典 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)

子宮頸がん検診ってどんな検査?

検査時間は15分程度。痛みはそれほどありません。

- 1 医師による診察
- 2 細胞診

大きめの鏡などで子宮の入り口を軽くこすって細胞を採取。

子宮頸がんは、早期のうちに治療すれば、90%以上が治癒します。^{※2}

子宮頸がんが進行すると、子宮摘出手術が必要となる場合がありますが、早期のうちに治療すれば、子宮を摘出せずに治療できるため、妊娠・出産も可能です。検診を受け早期発見・早期治療することにより、がんになるリスクや死亡リスクが減少します。

※2 参考 全国がんセンター協議会 全がん種別別国産がん検診5年相対生存率(2010～2012年診断症例)

14

○次年度ハイリスク者受診勧奨圧着はがき（裏）（子宮頸がん）

子宮頸がん検診の流れ

受診期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日まで

例年、受診期間が近づくと大変混みます。お早めにご予約・ご受診ください。

Step1 実施医療機関に直接予約

右のリストの受診したい医療機関へ電話します。予約の際は「熊本市のがん検診を受診希望」とお伝えください。

Step2 受診

受診当日は、身分証明書（運転免許証など）をお忘れずにお持ちください。（がん検診では受診券はありません）
【自己負担金】 1,200円
 結果は、約4週間後に郵送されます。

生活保護受給世帯、市民税非課税世帯の方は、下記の証明書の提示で自己負担金が無料になります。
 生活保護受給世帯 【生活保護受給証明書】（令和4年度（2022年度）発行分）
 または 令和4年度生活保護緊急時医療給付
 市民税非課税世帯 市民税（所得・課税）証明書 世帯分（1通400円）
 （世帯全員の非課税を証明した最新年度分）
 ※【市民税証明書 世帯分】はマイナンバーカードを利用したコンビニ交付サービスでは取得できません。

令和4年度（2022年度）子宮頸がん検診 実施医療機関一覧

管内	所在市区	医療機関名	電話番号
中央区	黒髪	よしむら産婦人科産心科クリニック	345-8300
	南台	あつしレディースクリニック	356-9325
		JAM熊本厚生連	328-1262
	城東	ソフィアレディースクリニック水瀬町	322-2996
		フォーシーズンズレディースクリニック	278-7870
	一瀬	福田病院	322-2995
	香竹	ゆのほら産婦人科医院	372-1110
	山川	山代産婦人科医院	362-1414
	大江	くまもと自然総合病院	364-9090
	出水	伊丹産婦人科医院	364-4003
東区	砂辺	くわみず病院健診センター	381-2630
	柳川	霞川レディースクリニック	381-4115
		聖アノレタイスクリニック	381-9670
	柳山	さかべち女性のクリニック	382-3600
	長瀬	ワイメンズクリニックグリーンセル	360-5511
		日産熊本健康センター	387-6710
	月出	長瀬そよかぜクリニック	285-4121
		レディースクリニックなかもら	213-1555
	健康東	ART女性クリニック	360-3670
	健康東	熊本総合保健センター	365-2323
桜木	島原産科婦人科医院	365-4103	
康ケ丘	いんてレディースクリニック	367-2333	

管内	所在市区	医療機関名	電話番号
西区	城西	慈恵病院	355-6131
	春日	みやはらレディースクリニック	325-1107
	吉野	すえなが婦人科・産科クリニック	352-7280
	田辺西	産科・婦人科うしじまクリニック	379-2727
南区	田辺	前田産婦人科医院	378-8010
	川尻	うちの産婦人科	288-5566
		熊本バースクリニック	320-2334
	豊木	清田産婦人科医院	273-4111
北区	北部東	北部東井上産婦人科医院	345-3911
	清水	朝日野総合病院	341-5075
南区	南生田	高橋レディースクリニック	348-7575
	南郷町	高橋レディースクリニック	213-5656
	宇土市	田山産科婦人科医院	0964-22-5522
	宇城市	まつばレディースクリニック	0964-34-0303

子宮頸がん検診についてより詳しく知りたい方は、熊本市ホームページへ。

●一部地域で集団検診も行っています。

このはがきは、令和4年度（2022年度）に20～38歳の複数年齢層を認める女性に送付しています。

15

○子宮頸がんハイリスク者受診再勧奨はがき

対象：年度末年齢20～38歳、約41,000人、9月上旬発送

郵便はがき

料金後納郵便

乳がん検診、子宮頸がん検診はお済みですか？

今年度の受診期限は、令和5年（2023年）**3月31日**

お問い合わせ
 熊本市コールセンター ひごまるコール
 TEL (096) 334-1500 (専門的お問い合わせを除く)
 熊本市 健康づくり推進課 TEL (096) 361-2145
 〒862-0971 熊本市中央区大江5丁目1番1号

(表)

乳がん検診、子宮頸がん検診の流れ

Step1. 事前予約

●実施医療機関に直接予約
 予約の際は「熊本市のがん検診」とお伝えください！

●乳がん検診の実施医療機関はこちらから

●子宮頸がん検診の実施医療機関はこちらから

または熊本市ホームページ「がん検診のご案内」をご覧ください。

一部地域では検診車での集団検診を実施します。詳しくは市政だよりでお知らせします。

Step2. 受診

●検診内容
 (乳がん) 問診/マンモグラフィ (子宮頸がん) 問診/視診/内診/細胞診

●検診に必要なもの
 ・保険証などの身分証明書
 ・検診料(自己負担金)
 (乳がん) ◆40歳代 1,500円 ◆50歳代 1,100円
 (子宮頸がん) ◆実施医療機関 1,200円 ◆集団検診会場 1,000円

※当日はがきがなくても受診できます。
 ※生活保護受給世帯、市民税非課税世帯の方は、一定の証明書の提示で自己負担金が免除になります。

Step3. 結果の確認

検査結果は約4週間後に郵送にてお知らせします。
 このはがきは令和4年度（2022年度）に42～58歳（50歳を除く）の複数年齢層を認める女性に送付しています。今年度既に受診された方は受診できませんのでご確認ください。

16

子宮頸がん・乳がん検診年齢階層別受診者数年次比較

ハイリスク者への個別
勧奨を行った対象年齢
階層が突出しており、
個別受診勧奨が効果
的であったことが判る。
グラフは年代ごとの受
診者数を記載している。
乳がん個別勧奨対象
者には子宮頸がんの啓
発も併せて行っている。



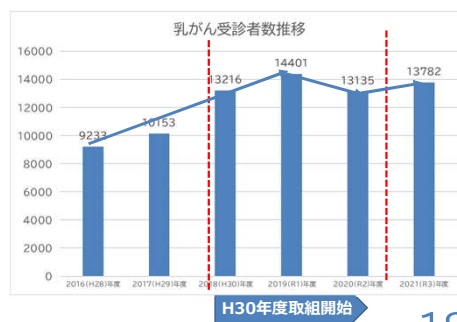
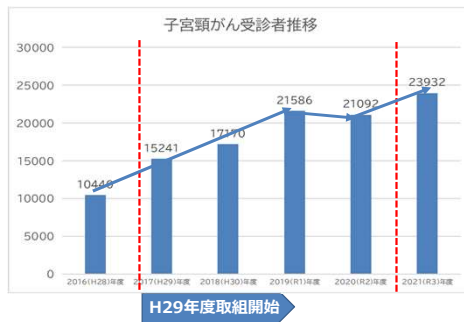
17

【結果】

- 子宮頸がん検診受診者数 : 129.2%増 (H28年度比)
- 乳がん検診受診者数 : 49.4%増 (H28年度比)

区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	備考
子宮頸がん	10,440人	15,241人	17,170人	21,586人	21,092人	23,932人	※取組開始 (赤字部分)
乳がん	9,223人	10,153人	13,216人	14,401人	13,135人	13,782人	※取組開始 (赤字部分)

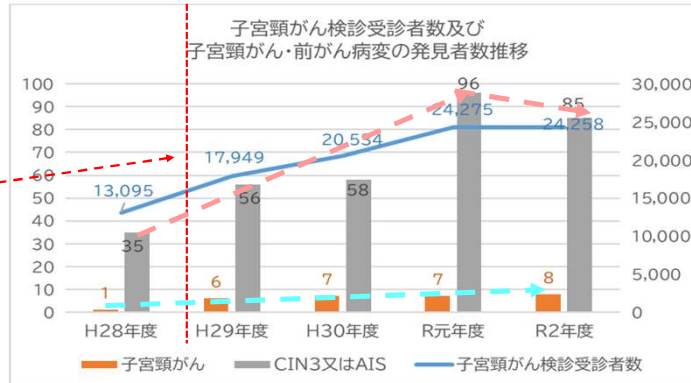
※子宮頸がん検診受診者数に妊婦健診での受診者数は含まない。



18

子宮頸がん検診によるがん・前がん病変発見数推移

個別受診勧奨の実施に伴い、受診者数が増加傾向である。また、がん発見数の発見数は、落ち着いているが、前がん病変の発見は大幅に増加している。



	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
子宮頸がん検診受診者数	13,095	17,949	20,534	24,275	24,258
子宮頸がん	1	6	7	7	8
CIN3又はAIS	35	56	58	96	85

H29年度取組開始

19

胃がん検診における内視鏡検査導入（H30年度～）

【課題】

○年代別受診率

	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
受診者数	1,583	2,006	7,618	5,559	1,340
割合	8.7%	11.1%	42.1%	30.7%	7.4%

← 19.8% → ← 80.2% →

○性別別受診率

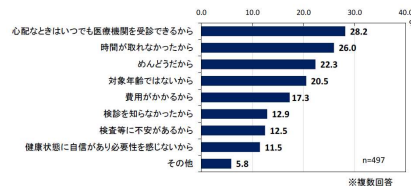
	男	女
受診者数	6,432	11,674
割合	35.5%	64.5%

カテゴリー別に分けてみると、受診が多いのは60歳以上の女性が多い。

市民アンケート調査におけるがん検診を受診しない理由

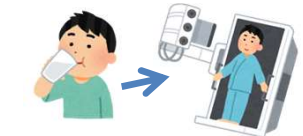

■受診しない理由 -18歳以上-

受診しない理由は、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が28.2%、「時間が取れなかったから」が26.0%、「めんどうだから」が22.3%、「対象年齢ではないから」が20.5%、「費用がかかるから」が17.3%、「検診を知らなかったから」が12.9%、「検査等に不安があるから」が12.5%、「健康状態に自信があり必要性を感じないから」が11.5%、「その他」が5.8%の順。



20

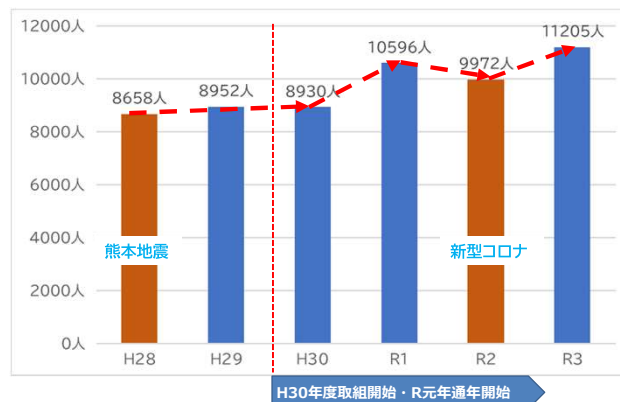
(3) 胃がん検診における内視鏡検査導入（H30年度～）

【内視鏡検査導入前】	【内視鏡検査導入後】
<p>検診方法：胃部エックス線検査 ※集団検診で実施</p> <p>対 象：40歳以上の男女 受診間隔：逐年</p> 	<p>胃部エックス線検査 ※対象等は左図参照</p> <p>QR</p> <p>検診方法：胃内視鏡検査 ※個別検診で実施</p> <p>対 象：50歳以上の男女 受診間隔：隔年</p> 
<p>○胃X線検査</p> <ul style="list-style-type: none"> レントゲン検査、造影剤のバリウムと、胃を膨らませる炭酸ガスを発生させる発泡剤を飲んで受診。 発泡剤を飲むとゲップが出やすくなるが、胃の粘膜を見やすくするためにゲップの我慢が必要。 膨らんだ胃の粘膜にバリウムを付着させるために、身体を仰向けやうつ伏せ、左右に回転させる。 バリウムは時間と共に粘膜から剥がれ落ちるため、撮影を行いながら身体を回転を繰り返す。 レントゲンで胃の内部を撮影するため、食事や飲料の摂取制限あり。 	<p>○胃内視鏡検査</p> <ul style="list-style-type: none"> 小型のカメラを装着した細い管を口または鼻から挿入し、食道、胃、十二指腸を直接観察。 粘膜の微細な変化も鮮明に見えることから、凹凸の少ない病変や出血なども確認が可能。 内視鏡を挿入する痛みを軽減するための麻酔薬や、胃の動きを抑える薬などを利用することから、薬剤アレルギーや持病がある方は注意が必要。 管がのどを通過する際に嘔吐反射が起きることがあり苦痛を感じる場合もあり。苦痛を軽減するために鎮静剤を利用する事もある。 内部を観察するため、食事や飲料の摂取制限あり。

のいずれかの方法を選択

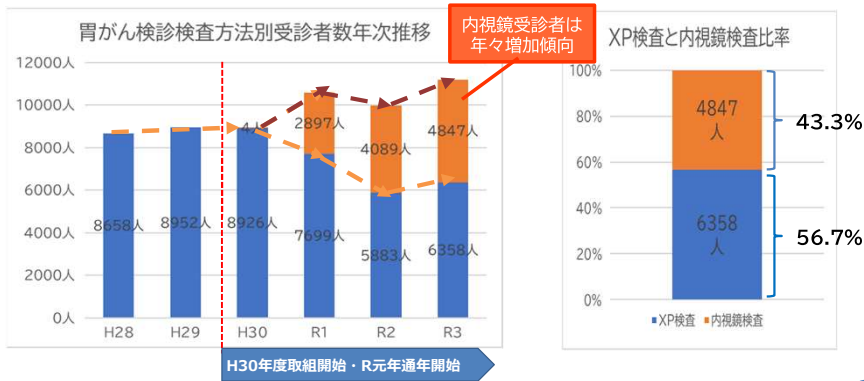
胃がん検診における内視鏡検査導入(H30年度～)

胃がん検診の受診者数を年次比較では平成30年度までは横ばい傾向、胃内視鏡検査の本格導入後の令和元年度以降増加した。令和2年度はコロナ禍の影響もあり減少したが、R3年度は再び増加傾向に転じた。



胃がん検診内視鏡検査の受診傾向について

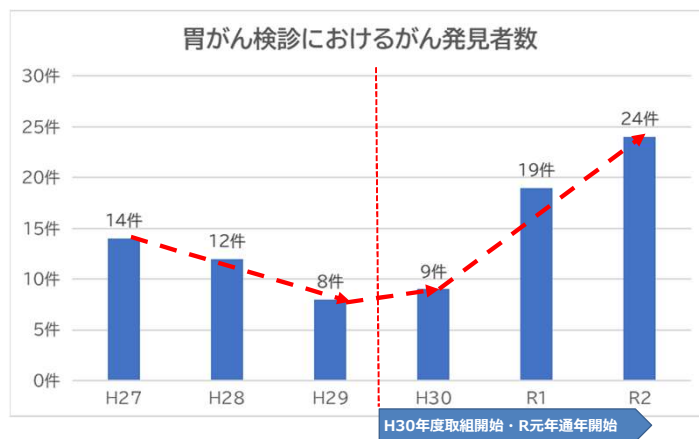
胃がん検診内視鏡検査を開始した平成30年以降、内視鏡検査の受診者はコロナ禍にあっても、増加を続けており、令和3年度には胃がん検診受診者全体の43.3%を占めており、近い将来にはXP検査と内視鏡検査の受診割合が逆転するものと考えている。



23

胃がん検診におけるがん発見率について

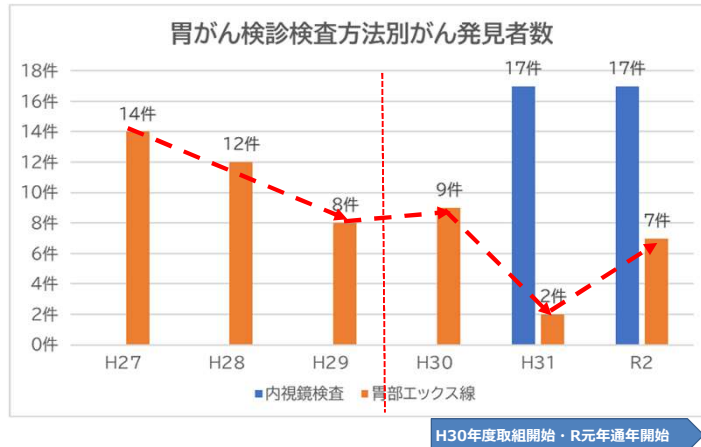
胃がん検診内視鏡検査を開始した平成30年以降、内視鏡検査の受診者に伴い、がんの発見者数も増加している。



24

胃がん検診検査方法別のがん発見率について

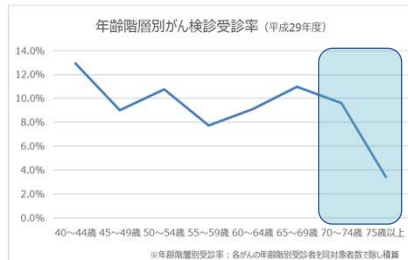
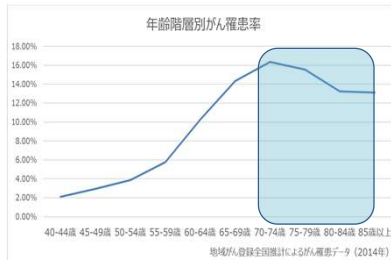
胃がん検診のエックス線検査、内視鏡検査ごとのがんの発見者数を比較すると明らかに内視鏡検査による受診者数が多い状況にある。



25

(2) 70歳以上がん検診無料化(令和元(平成31年)度～) がん罹患率と検診受診率

- 「年齢階層別がん罹患率」のがんの罹患率をみると、**罹患率は40代頃から緩やかに上昇し、70歳前半でピークを迎えるがその後も高いまま推移**する。一方、**がん検診受診率は40歳頃から概ね横ばい傾向であるが、70歳以上では受診率が急速に低下**する。
- がん検診全体の受診率向上を目指すには高齢者の受診促進が重要

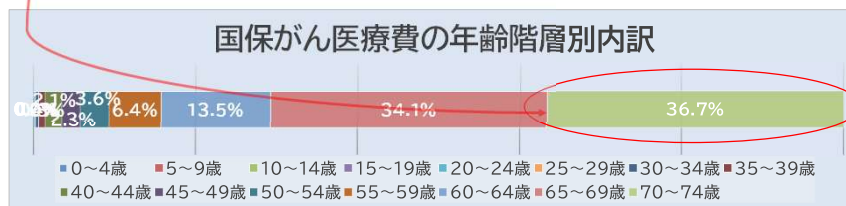


26

本市国保におけるがんの医療費

- 平成28年度の**本市国保**の総医療費は583億円、そのうち**がんの医療給付費は67億円程**。
- 平成28年度の後期高齢者医療保険の総医療費は888億円、そのうち **がんの医療費は71億円程度**。**国保、後期合計でがんの医療費は約140億円**となっている。
- また、**国保被保険者の70歳以上のがんの医療費はがん医療費の約37%を占め約24億円**、**国保、後期合計を含めると70歳以上のがん医療費は95億円にも上り、がん医療費全体7割近くを占める**。

※医療費データは国保データベース(KDB)システムより

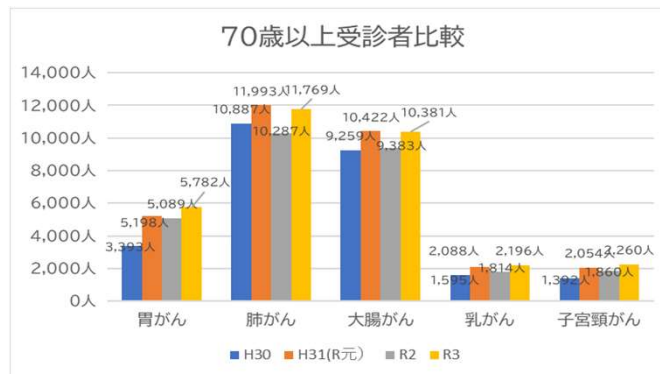


27

70歳以上のがん検診受診率推移

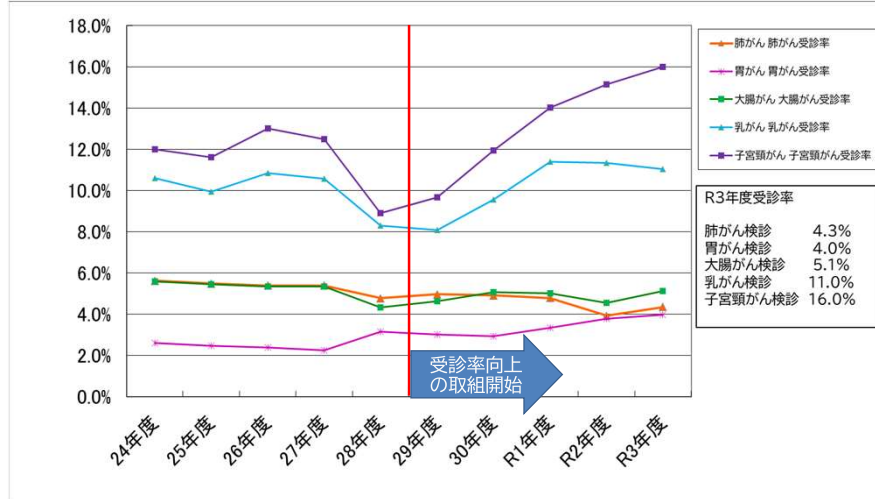
取組を開始した令和元年度以降全がん検診とも受診率が増加した。

令和2年度はコロナ禍もあり、すべてのがん検診で受診率が低下したものの、令和3年度には受診率は復調した。また、受診率向上には、**他の取組による相乗的な効果**も想定される。



28

がん検診受診率の推移



29

《以下参考》

がん検診におけるコロナ禍の影響

【コロナ禍におけるがん検診】

本市では、がん検診は不要不急の業務であるため、密になりがちな集団健診では、検温などの感染症対策を万全に検診を実施

【コロナ禍の影響による受診控え等の状況】

以下の表のとおり、すべてのがん検診で受診者数が減少したが、子宮頸がん検診は比較的受診者数の減少率が低かった。

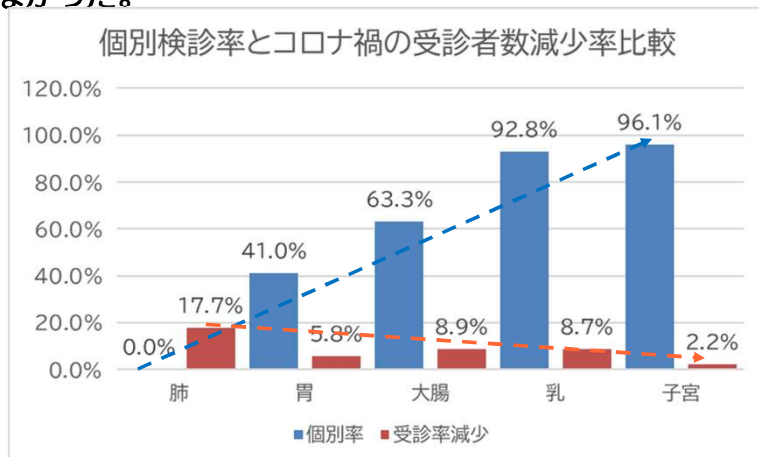
○受診者数比較(R元-R2)

	R元年度受診者数	R2年度受診者数	受診者増減(%)	個別検診実施率 (令和2年度)
肺がん検診	20,748人	17,071人	△17.7%	0%
胃がん検診	10,596人	9,972人	△5.8%	41.0%
大腸がん検診	21,725人	19,781人	△8.9%	63.3%
乳がん検診	14,401人	13,135人	△8.7%	92.8%
子宮頸がん検診	21,586人	21,092人	△2.2%	96.1%

30

個別検診率とコロナ禍の受診者数減少率比較

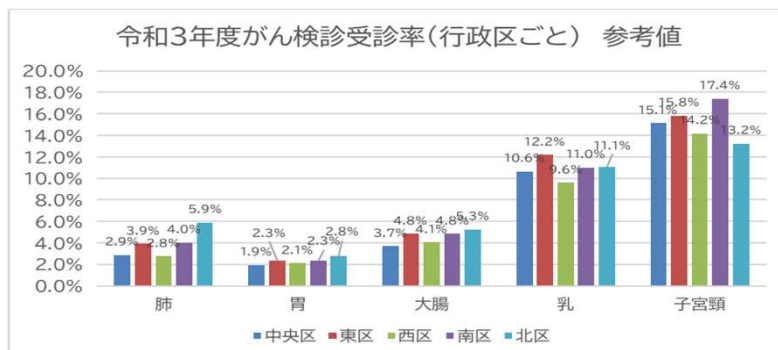
本市の行う5つのがん検診を比較したところ、個別検診率が高い検診では、コロナ禍における受診者数減少が少なかった。



31

行政区ごとの受診率比較

区ごとの受診率を比較すると、集団健診を行っている南区北区の受診率が高い傾向にある。また、個別検診を主に行う乳がん、子宮頸がん検診では、実施機関(医療機関)の集中する中央区、東区が高い。



※行政区ごとの受診率は簡略的に算出していますので、市全体の受診率と比較できません。

32